

## プロ野球の話題

馬場 尚道

久原会会長の広田先生より寄稿依頼がありましたので、私の趣味の一つであるプロ野球について語り、その務めを果たしたいと思います。

私は昭和二十年代の巨人川上の赤バット、東映大下の青バット時代からプロ野球に関心を持ち続けて今日に至っています。根っからの巨人ファンで、巨人が強かった時代の日本シリーズ九連覇を懐かしむ此の頃です。

さて、今年の最大の話題は何と言っても大谷選手でしょう。昨年末、大谷選手は米大リーグ挑戦を表明し、「投打二刀流で世界一の選手を目指して自分を磨きたい」と語っていた、彼のチャレンジ精神が私は大好きです。そして、アナハイム・エンゼルスに入団後、打者として三試合連続本塁打を放ち、投手として7回一死まで完全に封ずる投球をするなど大谷選手の投打にわたる、野球ファンの常識を上回る活躍に全米のみならず、日本の野球ファンも驚いて見守っています。

長い大リーグの歴史上でも投打二刀流の選手は少なく、元祖であるベーブルースが、今から100年前の1918年に投手として13勝、打者として11本塁打した記録が残っているのみです。高校生の時に「先入観は可能を不可能にする」と語っていたという大谷選手（23才）に今シーズンの更なる大活躍といつの日かベーブルースの記録を更新する日が来るのを楽しみに過ごしていきたいと思っています。寄稿文作成中に恐れていた大谷選手の故障（6/9、右肘内側側副靭帯損傷）が報道され心配しています。時差もある広大な米国各地を転戦する米大リーグの過酷なスケジュールに大谷選手が耐えられる体力を保持しながら、今後とも大怪我をせずに過ごせることを祈りつつ、私自身も大谷選手を陰ながら応援し続けたいと思っています。

一方、5月4日にはイチロー選手（44才）が会長付特別補佐に就任し、今シーズンの選手登録はないとのニュースが飛び込んできました。事実上の引退宣言です。イチロー選手のことは皆さんご存知でしょうが、大リーグ史上32人しかいない3,000本以上の安打数、3089本を17シーズンで達成し、日米通算4,367本の安打数の記録保持者でもあります。走攻守すべてに優れた、世界一の野球選手と言っても過言ではない素晴らしい日本人選手がイチロー選手です。

しかし、いずれの世界でも起きるものですが、今年は米大リーグで世界一を目指す日本人選手がイチロー選手から大谷選手へとバトンタッチされる世代交代の年になったようです。

病院 OB 会である久原会も発足から半世紀が経過し、世代交代も行われ、国立大村病院時代、国立長崎中央病院時代を経て、現在の国立病院機構長崎医療センターの時代となっています。その中の一時代を支えた一人として蔭ながら久原会を応援しつつ、米大リーグの日本人選手達の活躍も応援しながら日々を過ごしていきたいと思っています。